

3. 厚生労働科学研究費補助金（免疫、アレルギー疾患政策研究事業）

分担研究報告書

花粉飛散数が医療機関を受療する患者数、関連医療費に与える影響についての検討

分担研究者 黒川友哉 千葉大学医学部附属病院 臨床試験部 助教

研究要旨

スギ・ヒノキ花粉飛散の違いが医療機関を受療する患者数、関連医療費にどのような影響を与えるのかを匿名医療保険等関連情報データベースの解析から明らかにするため、首都圏で大量にスギ花粉が飛散した 2018/2019 年と少量の飛散であった 2016/2017 年の 1 月—4 月に医療機関を受療した患者数、関連医療費、総医療費の比較を行った。

医療機関受療患者数は、大量スギ花粉飛散の 2018/2019 年と少量スギ花粉飛散の 2016/2017 年はそれぞれ 564 万人、463 万で、通院回数は 3 回程度であったが、少量飛散年が若干多かった。花粉症関連総費用は 2016/2017 年、2018/2019 年のシーズン当たりそれぞれ平均で 514 億円と 564 億円/年であった。一方、受療した患者一人当たりでは 11,106 円、10,004 円と少量飛散年の 2016/2017 年が高かった。

研究協力者

奥野泰之・臨床疫学研究推進機構 代表理事
野田龍也・奈良県立医科大学公衆衛生学 准教授
岡本美孝 千葉労災病院 病院長
郡山みな美・千葉労災病院 医員

A. 研究目的

国民病と言われる程患者の増加が続いているスギ・ヒノキ花粉症であるが、原因となるスギ・ヒノキ花粉飛散は年度により大きく異なる。花粉飛散数が医療機関を受療する患者数、関連医療費にどのような影響を与えるのかを匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）の解析から明らかにする。

B. C 研究方法と結果

研究班で作成した解析計画書を基に、スギ・ヒノキ花粉飛散数が年により大きく変動する事が知られ、患者数も多くみられる首都圏での大量にスギ花粉が飛散した 2018/2019 年と少量の飛散であった 2016/2017 年の 1 月—4 月に医療機関を受療した患者数、関連医療費、総医療費の比較を行った。

医療機関受療患者数は、大量スギ花粉飛散の 2018/2019 年と少量スギ花粉飛散の 2016/2017 年はそれぞれ 564 万人、463 万で、大量飛散年に約 100 万人の受療者の増加が見られた。

通院回数は 2016/2017 年（3.0 回）がむしろ若干高か

った（2018/2019 年は 2.9 回）。首都圏での都県別受療者数は人口にほぼ比例したが、いずれの年も東京は人口に対する割合以上に多かった。

医療費については、花粉症関連総費用は全体で 2016/2017 年、2018/2019 年はそれぞれ平均で 514 億円と 564 億円/年であった。一方、受療した患者一人当たりでは 11,106 円、10,004 円と少量飛散年の 2016/2017 年が高かった。治療薬費用、診療行為費用も同様であった。総医療費については、2016/2017 年、2018/2019 年はそれぞれ平均で 4979 億円、5859 億円であったが、受療した患者一人当たりの総医療費はそれぞれ 107,589 円、103,932 円であった。

D. 考察

一般にスギ花粉飛散数が多いとされる首都圏で、大量飛散年（2018/2019 年）と少量飛散年（2017/2018 年）を比較すると大量飛散年では医療機関受療者が約 100 万人（22%）増加していた。ただ、季節性アレルギー性鼻炎関連医療費は 9.7%の増

加であった。受療者一人当たりでは治療薬費用の減少が見られた。毎年薬価改定による薬剤価格の低下、後発医薬品の普及が背景にあると考えられた。

E. 結論

スギ・ヒノキ花粉飛散量の違いにより医療機関受療者数には変化が見られ、今回首都圏で花粉飛散が多く見られた2018年、2019年では少量飛散であった2016年、2017年と比較して約22%の受療者の増加が見られた。関連医療費も変動したが薬価の影響も見られた。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録情報
なし